

人と自然が“ほっとな”まちの広報紙

え 報 び の

Public Relations

沖縄の空に散った18歳

【特集】語り継ぎたい戦争の「記憶」



2011
July
No.537

7

〈写真〉西小林小学校の殉難者の碑を見つめる白川さん（特集）

今から66年前の1945年（昭和20年）4月、えびの出身の18・19歳の若者2人が、特攻隊員として沖縄の空に散ったことをご存じでしょうか。

太平洋戦争は、1941年（昭和16年）12月から1945年（昭和20年）8月、西南太平洋・東南アジアを中心に、日本とアメリカ合衆国など連合国との間に行われました。

戦場で、そして国内でも、東京大空襲などの主要都市の爆撃、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾投下などで多くの方が亡くなりました。えびの市でも、1287人も尊い命が失われました。

市内には、グラマン艦載機の襲撃、大河平地区「ヒコキ谷」への特攻機墜落、第二山神トンネルでの肥薩線鉄道事故など多くの戦争のつめ跡が残っています。

しかし、戦後66年が経ち、戦争を知らない世代が増え、戦争の記憶が薄れつつあります。

戦争は、人の命を奪うだけではなく、戦争で最愛の人を奪われ、残された家族の心にも大きな傷を負わせました。

その記憶を忘れないためにも、沖縄の空に散った内田新一さん（享年19歳）、東郷周一さん（享年18歳）と戦争を体験した白川節夫さんの話から、戦争の悲惨さ、平和の大切さについて考えてみましょう。

【航空特攻作戦】

日本軍は連合国の強大な戦力に押され、1945年（昭和20年）初頭になると、沖縄はもちろん日本本土も空襲を受けるようになりました。同年5月7日には、同盟国であったドイツが降伏。連合軍の攻撃は日本だけに集中するようになりました。当時の日本政府は、沖縄を本土の最前線と考え、その最前線を守るために特攻作戦を採りました。

圧倒的な物的戦闘力に勝るアメリカの進攻を阻止する日本軍としては、兵士一人ひとりの精神力を武器とした特攻戦法しか他に手段がないとの結論に達したものでした。

沖縄での陸軍による航空特攻作戦は、米軍が沖縄南西にある慶良間列島に上陸した同年3月26日から始まりました。

特攻作戦には、鹿児島県の知覧基地を始め、都城など九州各地、そして当時日本が統治していた台湾など、多くの基地から出撃しています。知覧基地が最南端だったということもあり、全特攻戦死者1036人のうち、439人が知覧基地から出撃しています。

本格的な特攻作戦は、陸海軍共同で4月6日第1次総攻撃として始まり、7月19日第11次総攻撃の終了まで続きました。

※出典…知覧特攻平和会館発行「中高生のための事前学習資料」

【特集】語り継ぎたい戦争の「記憶」

沖縄の空に散った18歳

特攻隊員は開聞岳に敬礼をして、南の空に消えて行きました

母上様 喜んで下さり 沖縄の空に散った内田少尉と東郷少尉

昭和20年4月12日、えびの市坂元の内田新一少尉が、昭和20年4月16日には岡松の東郷周一少尉が沖縄の空に散りました。重さ250キロの爆弾を装着した戦闘機で敵艦に体当たりして沈める、陸軍沖縄航空特攻作戦でした。

鹿児島県知覧町の知覧基地（現在



内田新一少尉



東郷周一少尉

南九州市知覧町郡）からは、昭和20年4月1日から始まった特攻作戦。内田新一少尉は、昭和20年4月12日の第二次航空総攻撃第103振武隊員として、東郷周一少尉は、昭和20年4月16日の第三次航空総攻撃第40振武隊員として、沖縄の空に飛び立ちました。パイロットは必ず「死ぬ」

という「必死」条件の作戦でした。出撃後しばらくして、内田少尉から母親あてに郵便が届きました。「事務連絡在中」と表記された封筒の中には、5通の遺書が入っていました。母親あての一通は、「母上様 喜んで下さい、新一は尊き任務につけて戴く事が出来ました、新一としては之程満足な事はありません」の一文があり、「胸はいっぱい文はとぎれになりましたが、もう別に言ふことはありません」と結ばれています。この遺書を書くとき、19歳の胸中にはどのようなものだったでしょう。

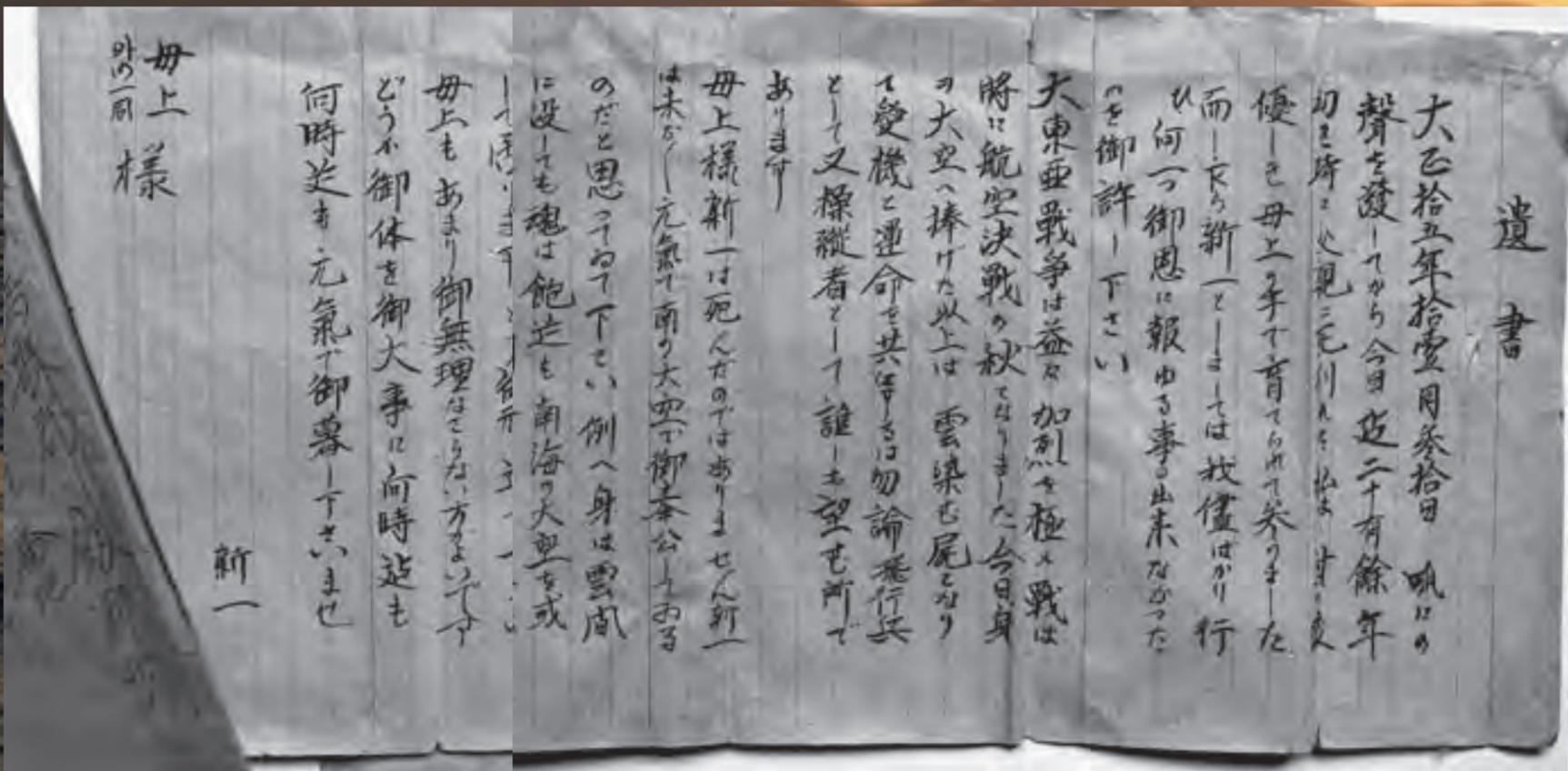
東郷周一さんは、写真以外に残された資料がなく、当時、どのような思いだったのか知ることはできませんでした。しかし、取材を続けるうちに、親族に話を聞くことができました（希望により匿名）。「私は、7人兄弟の5男、周一は末っ子です。周一が特攻隊員であったことを知ったのは、復員後、母にその死を聞いてからでした。終戦から2年が過ぎていました。」



戦闘機「零」の操縦席（知覧特攻平和会館）



特攻にも使用された戦闘機「疾風」（知覧特攻平和会館）



内田新一少尉の遺書の一部

私には、昭和14年10月に鉄道連隊として招集令状が来ました。私が日本に帰って来たのは、昭和22年10月のことです。シンガポールで作業中、アメリカ軍の捕虜になり、終戦はそこで知りました。現地では、終戦日から何か月経っていたかも分かりませんでした。私自身、招集令状が来た時、死ぬ覚悟を決めていました。助かったことが奇跡で、運が良かったと思います。

その当時は、周一の死を知り「日本のために死んでくれてありがとう」という心境でした。内田新一少尉の遺書の一通を紹介します。遺書の一部は、他の遺品とともに知覧特攻平和会館（南九州市）に展示されています。 ※遺影と遺書の掲載について、親族の了解を得ています。

遺書

大正十五年十一月三十日 呱呱の声を発してから今日迄二十有余年幼き時に父親に死別れた私は 其の後優しき母上の手で育てられて参りました。 而し乍ら新一としましては 我儘ばかり行ひ 何一つ御恩に報ゆる事の出来なかつたのを御許し下さい。 大東亜戦争は益々加烈を極め戦はるに航空決戦の秋となりました。 今日身を大空へ捧げた以上は 雲染む屍となりて愛機と運命を共にするは勿論飛行兵として又操縦者として 誰しも望む所でありませぬ。 母上様 新一は死んだものではありませぬ。 新一は未だ未だ元気で南の大空で御奉公しているのだと思つて下さい。 例へば身は雲間に没しても魂は飽迄も南海の大空

を或は米本土上空を翔廻り 憎き米英の撃滅に任じます。 母上様 少年飛行兵の母として驚かれたり且又女々しい振舞あつては新一も満足出来ませぬ。 之だけには未だ良子が居ります。 私の志をついで私の分まで孝養を盡します。 此の内に家を継がせて下さい。 近所の方々の御親切には何時も何時も感謝して居ります。 どうか御礼を述べて下さい。 母上もあまり御無理なさらぬ方がよいです。 どうか御体を御大事に何時迄も何時迄も元気で御暮らし下さいませ。

母上様
外の一同様
新一

行つたらもう帰つてくんな ある海軍甲種飛行豫科練習生の「記憶」

白川節夫さん（南昌明寺区）は、戦時中、特攻を志願されました。当時の状況や残された家族の思いはどのようなものだったのでしょうか。白川さんの話を紹介します。

特攻隊への志願

太平洋戦争末期、昭和19年の春、父の反対を押し切って17歳で海軍甲種飛行豫科練習生を志願し、松山海軍航空隊へ入隊しました。その頃、米軍が一気に本土に迫っている情報で、敵は吹上浜、一ツ葉海岸が、高知の浦戸湾かと言う噂でした。そこで先軍たちのあとに続けと戦友たちと特攻隊への志願を申し出ました。ところが私は長男ということで特攻隊には入隊できませんでした。特攻に行けなかった私は浦戸海軍航空隊へ転隊となり、海岸防備の海軍陸戦隊に編成されました。敵の上陸用舟艇の攻撃訓練が続きました。B29の本土空襲は毎日の日課で、とうとう沖繩上陸作戦になり、広島、長崎の

原爆投下で、終戦を余儀無くされることとなりました。終戦のおかげと言つては言葉が悪いかも知れませんが、9月2日に復員することができて現在があります。

復員と父の怒り

高知駅で切符を渡されて列車に乗りました。当時、父は西小林国民学校の校長をしていました。私は、西小林駅で降りました。駅から官舎までは数キロある道を歩き、「ただいま」と玄関をたたきました。

あの時の母のびびくりした姿は忘れることができません。母は喜び勇んで玄関を飛び出し、父の元へ私が帰って来たことを知らせに行きました。しばらくして、元気のない、しよげた顔で母は帰って来ました。その

時、母は、「父が家に入れるな」と言っているということでした。私は、今の今まで家族に対する想いが一変に吹っ飛び、激怒したことを覚えていません。

私は取りあえず、母が心配しないところで野宿しようと考え、国民学校校庭東の奉安殿で4日3晩を過ごしました。

4日目の夜、「家に入ってよし」と言う伝令が来ました。家に入り、ただ、ひたすら父の言い訳を聞きました。母は泣いています。父は「もうせざるを得なかったのだ」としか言いません。私にはその意味がさっぱりわかりませんでした。その夜は、なかなか眠れず「ひよっとしたら、俺が父をだまして豫科練に行つたからだろうか」と父の怒りの訳を考えました。父は、私に入隊通知が来た時、表の座敷に私を呼んで「お前がわざわざ海軍を志願していく必要はない。まだまだ行かんにゃならぬ人はいくらでもいるんだ。飛行機と言ったら死ぬことは決まっています。この馬鹿が」と言いながらも、

母の用意した杯を初めて父子で交わしました。その時の父の最後の言葉が「行つたらもう帰つてくんな」でした。そんなことだろうかとも考えてみたりしました。

翌朝、父は何事もなかったように学校へ行きました。母にあれこれ聞いてみましたが、なぜ父があれほど怒っていたのか不可解だと言っていました。

グラマン機の襲撃

家で暮らすうちに父の怒りが少しずつわかってきました。妹の話を知っていたら、終戦前、8月10日、西小林国民学校児童と小林高等女学校の生徒たちで編成された勤労奉仕隊（出征農家の農作業応援）の隊列が、西小林駅前にかかった午前9時頃、線路沿いを飛来してきたグラマン機に機銃掃射を浴びせられました。10人が死亡、18人が負傷、その隊列で先頭指揮を取っていたのが高女3年の妹でした。その妹の列が次々と倒れていきました。隊列の中

には下の妹もいましたが、その妹も無事に助かりました。母の話を聞くと妹たちの服には肉片と血がいつぱい付いていたそうです。

父の自決伺い

私は、この話で父の怒りが生まれたのではないかと考えました。父は、当日の朝、奉仕隊を組み、わが娘を指揮につけ、学校出発の命令を出しました。その直後、10人の尊き

命を奪われたのに、わが子2人が無事にいたことが心苦しかったに違いありません。その、いかんともしがたい苦痛のさなか1か月もたたない内に、長男の息子が元気で帰って来たわけです。父の心中は、遺族に申し訳ないと思つていたに違いありません。その時の父の心は私には計り知れません。

後になって知ったことですが、父は当時、県教育会へ自決伺いを出し、止められたことがわかりました。ま

た、後に建てられた西小林小学校校庭の慰霊碑には、父の書いた悲痛な思いが残されていました。

その後私は、父の勧めで旧師範学校に入学しました。いささが学業ばかり苦労しましたが卒業後41年間の勤務を終え、私の今日があります。

西小林小学校には、グラマン機襲撃で命を落とした殉難者の碑があります



*子どもたちの感想

語り継ぎたい、戦争の記憶

記憶に触れ、平和の尊さについて考える

戦後66年を経て、戦争を体験した人は年々少なくなっています。この様な中、戦争の記憶を風化させないため市内各小中学校では、戦争体験者から話を聞く授業を行っています。授業では、戦争体験談のほか、実際に戦争で使っていた軍服などに触れ、戦争について考えます。

日まで戦争と平和展「平和と命を考える」を行っています。戦後66年が経ち、戦争を知らない世代が増え、戦争の記憶が薄れつつあります。市民の皆さんも、家庭や職場そして地域で、あらためて戦争について話し合い、考えてみてはいかがでしょうか。

市内小学校6年生の修学旅行では、鹿児島県の知覧特攻平和会館を訪れます。真幸小学校の児童は、知覧特攻平和会館に行く前に白川節夫さんに戦争体験を聞き、戦争や平和について考えました。話を聞いて、子どもたちは、戦争や平和について何を感じたのでしょうか。

戦後生まれの私は、「戦争はしてはいけないもの」という漠然としたイメージしかありませんでした。特集の取材で、戦争は人の命を奪うだけではないという思いを強くしました。戦争体験者に話を聞いて、66年以上を経た今でも、心には、当時の悲惨な光景が鮮明に残っていることがわかりました。また、戦争で残された家族の心にも大きな傷が残っていることも知りました。

子どもたちは、体験談や知覧特攻平和会館の感想文を書いています。次のページでは、子どもたちの感想を紹介します。

今回の特集では、内田新一さんと東郷周一さん、白川節夫さんの話を紹介しましたが、市内には、まだまだ伝えきれない戦争の話がたくさんあります。今後も、記憶を語り継ぐために取材を続けたいと思います。

【平和と命を考える】
えびの市では、8月6日の広島原爆投下、8月9日の長崎原爆投下、8月15日の終戦記念日に戦没者の追悼と平和を願うサイレンを吹鳴します。えびの市民図書館では、8月15

【取材を終えて】
戦後生まれの私は、「戦争はしてはいけないもの」という漠然としたイメージしかありませんでした。特集の取材で、戦争は人の命を奪うだけではないという思いを強くしました。戦争体験者に話を聞いて、66年以上を経た今でも、心には、当時の悲惨な光景が鮮明に残っていることがわかりました。また、戦争で残された家族の心にも大きな傷が残っていることも知りました。



真幸小6年 黒松大晴さん

ぼくが、一番に残ったことは、特攻隊員になった人たちが、自分の家の反対を押し切ってまでも「国のために死んでいきます」と自分の意志で決め、国のために亡くなっていったことです。

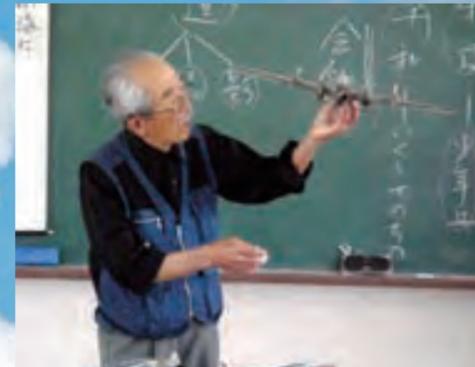
この時代に生まれていたら、「戦争に行きたくない」などと言って逃げ回っていたと思います。戦闘機には、片道分の燃料しか入っていないので、敵につっこむか、飛行機の不具合で、海に落ちるしかない聞きましました。敵につっこむとき、どんな気持ちだったのでしょうか。たくさん勇気が必要だったと思います。

修学旅行では、出勤前夜の隊員たちの基地での様子を知ることができました。写真を見ると、出勤がせまっているというのに、何もないような笑顔でした。ぼくだったら、あんな笑顔はできません。特攻隊員の人たちの意志の強さを感じました。このまま、戦争がない平和な世であってほしいです。



真幸小6年 黒松侑華さん

白川先生は、特攻隊に自分で志願したと話していました。もし私がその時代に生まれていたら、女の子だから行くことはないかもしれないが、男の子だとしても絶対に志願しなかつたと思います。なぜなら、私は国のために自分の命を捨ててまで行けないと思うからです。それでも、「国のため」と言って頑張っていたことがすごいことだと思えます。



模型飛行機を使い説明を行う白川さん



戦時中に使用されたものに触れる児童



真幸小6年 小園英理香さん

わたしは、話を聞く前「特攻隊員の人たちは、どうして自分から死んでしまうようなことをしたのだろう」と疑問に思うことがありました。でも、白川先生の話を聞くと、当時の人たちは、小さいころから「国のために死ぬことはいいことだ」と教えられて育っていたそうです。「死んでしまうことは、国の役に立つこと、名誉なことなのだ」と思ったから、自分から死ぬことはこわくなくかつたのだなと思いました。今のわたしたちには、とても信じられませんが、特攻隊の人たちや、当時の人たちの犠牲があつたから、今の平和な日本があることがわかりました。

修学旅行で、たくさんの人たちが、特攻隊になって亡くなっていったことがわかりました。その中でわたしが一番びっくりしたのは、明日特攻隊として出撃するということに、笑っている写真があつたことです。死ぬことに誇りをもっていたからだろうなと思いました。



真幸小6年 溝上寛太さん

先日は、お忙しい中、特攻隊のことについてお話を聞かせてくださってありがとうございました。ぼくは、特攻隊は、相手の船に飛行機ごとぶつかって行って自分もいっしょに爆発することは知っていました。しかし、特攻隊の人がどんな思いでいたのかは知りませんでした。白川先生のお話の中にあつた、「南海にたとえこの身は果つるともいくとせのちの春を思えば」という言葉を聞いて、自分は死んでしまふけれど、これからの人たちのために飛行機ごとぶつかっていった特攻隊の人たちは、すごいと思います。戦争は、たくさん人の命がなくなつてしまします。だから絶対にしてはいけないと思います。世界中から戦争がなくなつてほしいです。



平和を祈り千羽鶴を渡す児童（知覧特攻平和会館）



隊員が出撃まで過ごした三角兵舎（知覧特攻平和会館）

東日本大震災の被災者支援 被災者に支援金が渡されました



支援金は、市長から手渡されました

市では、東日本大震災で被災された方の受け入れ支援を行っています。対象者は、「災害救助法の適用市町村に居住があり、被災証明書等の交付を受けた方」「福島第1原子力発電所による災害で避難指示等の区域にある方」で、原則、えびの市に1か月以上居住し、継続的に連絡が取れる方です。

活諸費の支援などです。5月12日、福島県南相馬市からえびの市に避難していた牛渡恵理香さんに被災者支援金が渡されました。牛渡さんは出産のため昨年12月に帰省。今年2月19日に出産をしましたが、3月11日の震災での福島第1原子力発電所の事故により帰ることができなくなっています。この支援金は、生活諸費として渡されたものです。牛渡さんは「えびの市の心遣い、配慮に感謝しています」と話していました。

これからも記録を伸ばしましょう 交通死亡事故ゼロ継続中

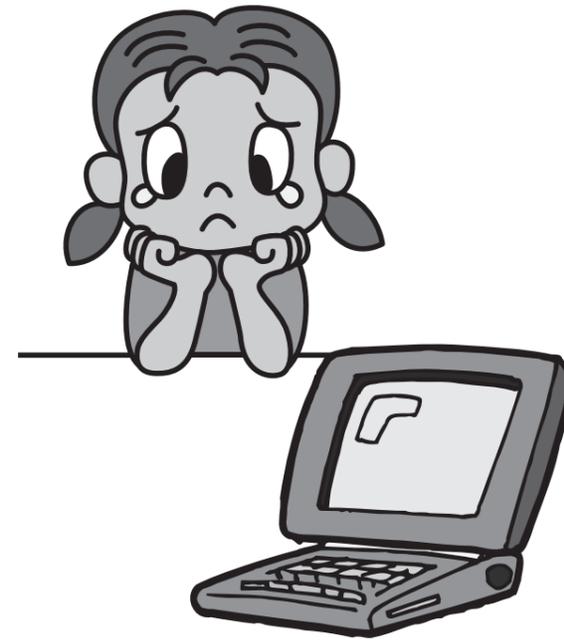


表彰を受ける市長、えびの警察署小山所長

えびの市が交通死亡事故ゼロ表彰を7月1日、宮崎県知事から受けました。えびの市内では、交通死亡事故が平成20年6月29日から平成23年6月28日の期間(1095日間)発生していません。これまでの交通死亡事故ゼロの記録は、昭和52年度からの639日でした。

伝達式は、7月4日、市長応接室で行われ、市長に表彰状が手渡されました。表彰を受ける市長は「交通死亡事故が発生していないのは、市民の皆さんの心がけのおかげです。これからも、記録が伸びることを期待しています」と話していました。市内では交通死亡事故(6月29日現在)は発生していませんが、交通事故は後を絶ちません。交通事故を減らすためには、子どもと高齢者の事故防止や飲酒、暴走、過労、居眠り運転などの無謀運転防止、セーフティエコドライブ推進など、市民の皆さんの日頃の心がけが大切です。

8月は人権啓発強調月間です 気をつけよう、インターネットでの人権侵害



携帯電話やパソコンのインターネットの利用者はここ数年で急激に増加しています。今では私たちの日常生活や仕事に欠かせない道具となっています。しかし、その便利な道具の間違った使い方により誰かを傷つけたりトラブルに巻き込まれたりするケースが増えています。特に、匿名での掲示板への悪質な書き込みが跡を絶ちません。他人への誹謗・中傷を掲示板へ投稿したり、個人のプライバシーを掲載するこ

とは悪質な人権侵害です。画面の向こう側にも人がいます。インターネットを利用する場合は、自分と同様に人権のある相手の存在を意識することが大切です。【人権を侵害しないために】インターネット上の掲示板などを利用する際は、常に書き込み相手や読み手に配慮することが大切です。◇差別的な発言などを書き込まない。インターネットの掲示板は匿名で書き込むことができますが、これを利用して差別的な発言や誹謗・中傷

の書き込みをするのはやめましょう。◇うそや不確かなことは書き込まない。不確かな情報やうわさを書き込んだ場合、その情報が独り歩きをして、正しいものとしてインターネット上に広まってしまい、想像もしない結果を招くおそれがあります。◇個人情報を書き込まない。特定の個人の氏名や住所、電話番号などの書き込み、写真の掲載は、プライバシーの侵害にあたります。【もしも被害にあったら】インターネットの掲示板などで、プライバシー侵害や、差別発言や情報を掲載している掲示板の管理者、プロバイダーなどに記事の削除要請や発信者情報の開示請求をすることが出来ます。削除に応じない場合や自分で削除要請のやり方がわからない場合、人権侵害を受けた場合は、法務省インターネット相談窓口、または最寄りの法務局などへ相談しましょう。

相談窓口

相談窓口	お問い合わせ先
法務省インターネット人権相談受付窓口	(パソコン) http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html (携帯電話) http://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html
総務省子ども人権 110 番	☎ 0120 - 007 - 110
法務省常設人権相談所ナビダイヤル	☎ 0570 - 003 - 110
宮崎地方法務局	☎ 0985 - 22 - 5124
宮崎地方法務局都城支局	☎ 0986 - 22 - 0490
宮崎県警察本部 サイバー犯罪相談窓口	☎ 0985 - 31 - 0110 (URL) http://www.pref.miyazaki.lg.jp/police/high-tech/index.htm
えびの警察署 刑事生活安全課	☎ 33 - 0110
えびの市役所総務課人権啓発室	☎ 35 - 1111 (内線 350)

※サイバー犯罪の被害にあったり、あいそようになった場合は、宮崎県警察本部へ相談しましょう

あの時、あの頃

あの時のえびの市を広報紙で振り返る

今月は、36年前の広報紙にタイムスリップ



「親子のスキンシップを楽しむ」

えびの勤労者体育センターで「体力づくり親子のつどい」が開かれ、約60組の親子が親と子のふれあいを楽しみました。

この催しは市教委保健体育課が、親子で遊ぶ機会をつくって体力づくりの一助にしようと企画したもので、4歳から6歳の子どもを対象に参加を呼びかけていました。

(昭和55年7月掲載)



「味で勝負。アムスメロン」

新しいメロン「アムスメロン」の栽培が、今年から市内で本格的に始まり、いま、春作の取り入れが行われています。このアムスメロンは、従来のコサックメロンに代るものとして、昨年加久藤地区で二十アールが、九州で初めて試験栽培されています。

(昭和55年7月掲載)



「16ミリ映写機免許講習会」

学校教育や社会教育、地域学習、サークル活動などに幅広く16ミリ映写機を利用してもらうと、中央公民館で「16ミリ映写機操作免許取得講習会」が開かれました。

この講習会は、市教委社会教育課主催で行われたもので、受講申込みが約70人にも達し大好評でした。

(昭和55年7月掲載)

※このコーナーは、これまでの広報紙の記事を一部抜粋、修正して掲載しています

がんばる！公民館

心地よいやさしい風の吹く公民館を

(飯野駅前自治公民館)

飯野駅前自治公民館は、交通の要所JRえびの駅周辺に位置します。昭和38年には、宮崎交通が、飯野駅からえびの高原間の路線バスを開業しました。当時は、登山客でにぎわいました。

しかし、飯野駅は、昭和61年に無人駅となり、路線バスも運行停止となりました。今から4年前、吉都線列車内のトイレ完備を機に、飯野駅のトイレが閉鎖されまし



地区民が参加して、環境整備を行いました



飯野駅前自治公民館長 戸山義輝さん

た。そのため、近隣民家のトイレ借用が増え、駅周辺にはゴミが散乱しました。

そこで、駅前自治公民館は、近隣企業や飯野高校の協力と、市の補助事業を活用して、飯野駅に「といちらかさん会」を結成しました。

会では、100人を超えるボランティアとともに、飯野駅トイレの清掃や花の手入れを3年前から行っています。

このほか、伝統行事の「祇園祭」があります。今年は8月7日を計画しています。八坂神社の神事や子ども・大人みこし、夜には飯野地区公民館駅前分館で演劇大会を行います。ぜひ見に来てください。

駅前地区は、少子高齢化が進み、公民館活動の活性化が難しい状況です。少しでも心地よい、やさしい風の吹く、公民館づくりを目指したいと思えます。



入戸火砕流の想像図



シラスの壁

ジオパーク発掘調査隊 その22

今月は、「火砕流」を説明します。

■火砕流

火砕流とは、火口から噴出した高温の溶岩や軽石、火山灰とガスの混合体が、高速で地表を流れ下る現象です。20年前の雲仙普賢岳の場合は、山頂付近に成長した溶岩ドームの崩落によって引き起こされました。今回の新燃岳の噴火でも火口周辺に火砕流の跡が確認されました。

一方、過去に加久藤カルデラ(宮崎県えびの市、鹿児島県湧水町)や始良カルデラ(錦江湾奥)を形成したと言われる大規模な噴火では、勢いよく上昇した噴煙の柱が崩れ、ドーナツ状

に大規模な火砕流が発生したと考えられています。

錦江湾奥で今から約3万年前に起きた噴火では、南九州一帯を火砕流が襲い、軽石や火山灰がごく短い期間で分厚く積もり、「シラス台地」が形成されました。この火砕流は霧島市国分重久の地名から入戸火砕流と呼ばれています。

また、火砕流は自分の熱と重さで固まり、溶結凝灰岩になる場合があります。都城市の関之尾滝、曾於市の桐原の滝や三連轟、小林市の須木の滝や陰陽石などは今から34万年前に加久藤カルデラから噴出した火砕流による溶結凝灰岩でできています。

まちのわだい

11'07 Ebino City Topics



● 市民大学開校

6月18日、市文化センターで「市民大学」開校式が行われました。式には受講生24人が参加しました。

この大学は、市民に幅広い分野の専門的な学習機会を提供し、積極的に「まちづくり」に参加してもらうことを目的に開校されたものです。受講生は、えびの市を知るための全10回の講座を受講します。



第1回の講座は、市長の「夢あるまちづくり」でした

● 田植えと野菜収穫を体験

6月25日、26日、東原田地区で、泥んこ田植えと新鮮野菜収穫体験ツアーが行われました。ツアーには、市内外から約40人が参加。田植えや野菜収穫などを体験しました。

このツアーは、田植えなどをおして参加者に日頃のストレスなどを発散してもらおうと、笑美農会主催で行われたものです。田植えの前には、泥んこバレーが行われ、参加者は泥にまみれながらバレーを楽しんでいました。



参加者は、バレーで親睦を深めました

● 父の日を前に花束を贈呈

6月13日、えびの市地域婦人連絡協議会の5人が市長を訪問。6月19日の父の日を前に、市長と教育長に花束を贈呈しました。

この贈呈は、同協議会が市長と教育長をえびの市のお父さんと見立て、毎年行っているものです。同協議会会長の春口貞子さんが「市民の安心安全のため努力されている姿に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも体に気をつけて頑張ってください」と花束を贈呈しました。



市長と教育長に花束を贈呈

● ひまわりの苗を植栽

6月14日、グリーンパークえびのフラワーガーデンで、ひまわりの植栽が行われました。植栽には、加久藤小・中学校・尾八重野分校の児童生徒や地域ボランティアなど約200人が参加しました。

この植栽は、児童生徒の郷土の自然とふるさとを愛する心を育てることを目的に行われたもので、今年で4回目です。約100アールの畑には、約2万5000本のひまわりが植えられました。



8月上旬には開花し、中旬には、見ごろを迎えます

● キャベツで被災地支援

6月28日、東日本大震災で被災した宮城県石巻市と南三陸町に、810箱のキャベツが支援物資として送られました。

このキャベツの支援は、尾八重野土地改良区内のキャベツ農家など10戸が、東日本大震災で被災した方に何かできないかと考え行われたものです。尾八重野コミュニティセンター前では、キャベツの積み込みと出発式が行われました。



キャベツは、10トントラックいっぱい積み込まれました

● 犯罪のない地域社会を

7月6日、えびの地区保護司会の8人が市長を訪問。代表して会長の友清徹也さんが、法務大臣の「社会を明るくする運動」メッセージを代読しました。

社会を明るくする運動とは、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。今年で61回目を迎えます。



運動について語る保護司会と市長

● 素早い防疫に感謝

6月27日、鹿児島市のJA会館で、えびの市長に社団法人鹿児島県畜産協会から感謝状が贈られました。

この感謝状は、昨年えびの市内で4例の口蹄疫が発生したにもかかわらず、素早い殺処分などの防疫措置で、鹿児島県への口蹄疫侵入を未然に防いだことに対し、贈られたものです。同団体が、鹿児島県外の団体に感謝状を贈るのは今回が初めてで、極めて異例の事です。



感謝状を受け取る市長

information

お知らせ コーナー

ご利用ください。プレミアム付き商品券

市内の消費拡大と地域経済の振興を目的として、2割分のプレミアムが付いた商品券が販売されます。

【販売価格】 1セット 10,000円 (1,000円券×12枚)

【販売場所】 えびの市商工会、市役所本庁、飯野出張所、真幸出張所

【販売開始日】 8月1日(月)～(※販売は、平日のみ)

【販売時間】 午前10時～午後3時

【使用期限】 平成23年12月31日(土)

【注意事項】 ●商品券購入は、1世帯あたり50,000円(5セット)までです。

●商品券の販売は、完売となり次第終了します。

●今回の商品券が使用できる店舗等は、市内の中小企業者に限られます。

☎えびの市商工会

☎ 35 - 1544

☎市観光商工課企業誘致・商工振興室

内線 333

宮崎県就職説明会開催

「県内で仕事をお探しの方」と「人材を求める県内企業」との出会いの場として就職説明会を開催します。

【小林会場】

【日時】 8月2日(火)

(受付) 午後1時～

(説明会) 午後1時30分～午後4時

【場所】 小林市中央公民館(小林市細野38-1)

※小林会場のほか県内5会場(日向会場8月3日・日南会場8月4日・延岡会場8月5日・都城会場8月9日・宮崎会場8月11日)でも開催されます。

【対象者】 県内企業への就職を希望する方。年齢制限などはありません。また、学校卒業予定の方(高等学校卒業予定者を除く)も対象となります。

【参加方法】 事前手続きは必要ありません。当日、会場で「受付票(企業訪問カード)」を記入し、各企業のブースを訪問してください。

【参加料】 無料

【参加企業】 参加企業の情報は、宮崎県ホームページ(<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/>)をご覧ください。

☎市観光商工課企業誘致・商工振興室

内線 333

市長等政治倫理審査会審査報告書の要旨を公表します

えびの市長等政治倫理審査会は、6月14日、えびの市長とその配偶者の資産等報告書などの審査を行いました。その審査報告書が市長あてに提出されましたので、その要旨を次のとおり公表します。なお、資産等報告書等と審査報告書は総務課で閲覧できます。

【審査報告書の要旨】

○審査の対象

条例に基づき市長が作成した市長とその配偶者に係る次の報告書

(1) 資産等報告書

(2) 所得等報告書

(3) 関連会社等報告書

○審査結果

各報告書について、証明書類に基づき確認、審査した結果、疑義なく適正に報告されているものと認められます。

☎市総務課人事係

内線 315

第5次えびの市行政改革大綱を公表しました

市では、平成23年度から平成27年度までの5か年計画である「第5次えびの市行政改革大綱」を新たに策定し、公表しました。

新たな大綱は、「行政刷新! 真の住民自治を目指して」を市役所像として4つの基本方針「市民との信頼を深め、満足される住民サービスの提供」、「市民との情報共有と、協働による行政運営の推進」、「市民と一体となった、健全で効率的な行政経営の推進」、「市民ニーズに対応できる、柔軟で機動的な組織機構の構築」を改革の柱としています。

新しい大綱は、次の場所で閲覧できます。

【閲覧場所】 本庁財政課、飯野出張所、真幸出張所、市民図書館

市公式ホームページ(<http://www.city.ebino.lg.jp/>)でも閲覧できます。

☎市財政課行政経営係

内線 381・383

[メール] zaisei@city.ebino.lg.jp

ハローワークへ早めの求人を

来春、中学・高校卒業予定者の求人受付が6月20日から始まりました。

人材確保のためには、早めの求人提出が大切です。現在、ハローワークでは、求人提出に必要な、求人票等の関係資料を窓口で配布しています。この機会に、ぜひ、ハローワークでご相談ください。

☎ハローワーク小林

☎ 23 - 2171

学卒求人担当、学卒ジョブサポーターまで

交通事故にあった方の無料相談

宮崎県自動車保険請求相談センターでは、交通事故にあった方の相談を行っています。

▼交通事故無料相談

【相談日】 毎週月曜日～金曜日(祝日を除く)

【時間】 午前9時～正午、午後1時～午後5時

※相談を利用する場合は、事前に連絡をしてください。

▼弁護士相談

【相談日】 毎月第3木曜日

【時間】 午後1時30分～午後

4時

【相談料】 無料

※予約制要面談

☎宮崎自動車保険請求相談センター

☎ 0985 - 28 - 1199

放送大学入学生募集

放送大学では、平成23年10月入学生を募集しています。放送大学はテレビなどの放送により授業を行う通信制の大学です。この機会に放送大学で学んでみませんか。

【募集学生の種類】

○教養学部

[科目履修生] 6か月在学し、希望する科目を履修

[選科履修生] 1年以上在学し、希望する科目を履修

[全科履修生] 4年以上在学し、卒業を目指す

○大学院

[修士科目生] 6か月在学し、希望する科目を履修

[修士選科生] 1年間在学し、

希望する科目を履修

【出願期間】

[教養学部] 8月31日まで

[大学院] 8月19日～9月2日

【資料請求】 無料

※資料請求、詳しい内容は放送大学校宮崎学習センターへお気軽にお問い合わせください。

☎〒 883-8510

日向市本町11-11

放送大学宮崎学習センター

☎ 0982 - 53 - 1893

戦没者の追悼と平和を願いサイレンを吹鳴します

広島原爆投下の8月6日、午前8時15分と長崎原爆投下の8月9日、午前11時2分、終戦の日の8月15日、正午に、戦没者の追悼と平和を願いサイレンを吹鳴します。

市民の皆さんのご理解をお願いします。

☎市福祉事務所福祉係

内線 261

119 だより

熱中症には注意が必要です

夏も本番となり、暑さが厳しくなってきました。夏になり熱中症の発生率も高くなります。

熱中症になりやすい環境は

○前日より急に温度が上がった日

○温度が低くても多湿

○室内作業をしている人が、急に外に出て作業した場合などがあります。

また、5歳以下の幼児、65歳以上の高齢者も熱中症になりやすいといわれます。

エアコンや扇風機を上手に使い、熱中症になりにくい環境を作ることや、こまめに水分補給するなどして熱中症にならないよう気をつけてください。

6月の活動状況 [えびの消防署管内]	火災	1件	年計	8件
	救急	55件	年計	366件

■えびの消防署 ☎ 33 - 6119

110 だより

警察官・警察事務職員募集

宮崎県警察では、警察官・警察事務職員を募集しています

【受験資格】

[警察官]

昭和59年4月2日～平成6年4月1日生の者(高卒程度)

[警察事務]

平成2年4月2日～平成6年4月1日生の者(高卒程度)

【受験申込受付期間】 8月8日(月)～8月26日(金)

【試験案内・願書配布】 えびの警察署で願書配布中

【お問い合わせ先】

詳しい内容などは、えびの警察署までお問い合わせください。☎ 33 - 0110

6月の交通事故 発生状況	人身	8件	本年 6月末	54件
	物件	23件	本年 6月末	151件

■えびの警察署 ☎ 33 - 0110

心の一首一句

短歌

たつぷりと露に濡れいる露草は

空の青より青深みゆく

原田区 岡本克子

空の青、緑の葉むらも一段と輝きを増す文月。災害炎暑節電と諸問題が山積みしているけど自然界に目を転じると露を含む一輪の露草は清涼感を漂わす。路傍の雑草は傷められてこそ、咲く花は長く美しい。人の生き方と重ねて見えてくるものがあると作者は感動しているのがある。心根のやさしい詠である。
(評 竹下妙子)

俳句

余生とは死を待つことか天の川

京町区 押領司勝

ともに励んだ句友が亡くなった。句会の発展に力を尽くした人だった。もともと川柳作家の彼が、俳句の方でも抜群の才能を発揮し、常にリーダー的存在だった。豪快な話ぶり、笑ひ声は今も耳の奥に残っている。謹んでご冥福をお祈りいたします。
(自註)

詩

愛しんで

上浦区 玉村キクエ

愛しんで 土をかぶせる

愛しんで 草をとる

愛しんで 水をやる

愛しみが 幸を呼ぶ

美をうむ

喜びをうむ

土にいそしみ育てる喜び

ありますか、好きだと言える一冊が。

おすすめの 一冊



『命の教室』

池田まき子／著

動物管理センターで捨てられた多くの動物たちが「殺処分」されているという現実。

センターで働く職員たちは、このつらい実態をきちんと知ってもらいたいと願い「命の教室」を開いています。

「動物の命だけでなく、自分自身の命の尊さにも目を向けてほしい」というセンターからの命のメッセージが溢れています。目をそむけなくなる現実が書かれていますが、教室に参加した子どもたちの感想文に救われる思いがする一冊です。

BOOK CORNER

■推薦：市民図書館

Editor's

◎編集後記

今月は、語り継ぎたい戦争の「記憶」と題して平和について考える特集としました。取材に協力をいただいた白川さん、関係者の皆さん、貴重なお話をありがとうございます。

夏本番を迎え、かなり蒸し暑くなってきたと同時に、昆虫もたくさん出てきました。今月紹介できせんでしたが、シルバー人材センター作業所のカブトムシは、かなり大きかったです。子どもの頃、カブトムシ、クワガタを取りに行った時のことを思い出しました。

◎えびの市の人口

男性／9,904人（－241人）	転入／42人
女性／11,235人（－29人）	転出／292人
合計／21,139人（－270人）	出生／16人
	死亡／36人

◎えびの市の世帯数

9,292世帯（－241世帯）
(平成23年7月1日現在)

今月の納税

固定資産税 第2期
国民健康保険税 第1期
後期高齢者医療保険料 第1期
8月1日までに納めましょう。

あなたもつくってみませんか。

(短歌) 竹下妙子さん ☎ 0984 - 37 - 3056

(俳句) 松山良文さん ☎ 0984 - 33 - 4904

(詩) ポエム同好会 (市田寛幸さん) ☎ 0984 - 37 - 2528 まで。



いきいき!健康

Let's Lead A Healthy Life!

熱中症を予防しよう!

■山之口保健師 (健康保険課)

炎天下ではもちろん、直射日光の当たらない室内でも熱中症は発生します。むしろ室内で重症化することが多くなっています。高温多湿で風通しの悪いところや、アスファルトなどの地面からの照り返しの強いところも、体が熱を放散できず、汗の蒸発も不十分となるので要注意です。

予防のポイント

- ①こまめな水分補給、汗をかきすぎたら塩分も補給する
- ②通気性の良い吸湿・速乾性のある涼しい服を着用する
- ③外を歩くときは日陰を選び直射日光を避ける
- ④室内はすだれやカーテンで直射日光を防ぎ、換気して風通しを良くする
- ⑤発汗により体温調節をするので発汗機能が低下しないよう適度に汗をかくことも大切

⑥規則正しい生活とバランスのとれた食事、十分な睡眠で体調管理をする

注意すること

- ①暑さに対する抵抗力は、体調や暑さに対する慣れなどが影響します。自分の体調の変化に気をつけ、万全の予防を心がけましょう。
- ②高齢者は特に、のどの渴きを感じていなくても水分補給をし、暑さを感じなくても扇風機やエアコンを使って室温調節をしましょう。
- ③一人ひとりが周囲の人に気を配り、熱中症の予防を呼びかけあうことで、発生を防ぎます。
- ④今年の夏は電力供給の抑制から節電をお願いしていますが、節電を意識しすぎるあまり、健康を害することがないようにご注意ください。適度に扇風機やエアコンを使用しましょう。
※熱中症情報は厚生労働省、環境省、気象庁、消防庁のホームページにも掲載されています。

くらしのメモ

ゴミの現状と処理にかかるコスト

日本のゴミの排出量は、平成20年度年間4千811万トンで、平成13年度から減少はしているものの膨大な量です。

国民1人1日あたりでは、1,003グラムのゴミを毎日捨てていることとなります。

本県のゴミの排出量は、平成20年度年間42万8千トンで、平成3年以降減少傾向です。しかし、1人1日あたり1,009グラムのゴミを毎日捨てていることとなります。

えびの市では、平成22年度で年間6千310トンのゴミ排出量があり、市民1人あたりでは、約800グラムのゴミを毎日排出しています。

全国のゴミ処理にかかった経費は、平成20年度で、約1兆8,253億円で、国民1人当たり年間約14,200円を使っていることとなります。昭和

60年度のゴミ処理にかかった経費は、約1兆円です。約20年間で約2倍に上昇していることとなります。中でも建設改良費や処分費が増えています。

えびの市でのゴミ処理経費は、平成22年度、全体で3億5千227万円となっています。これは、市民1人当たり年間15,754円の負担となります。

このゴミ処理経費は、主に私たちの税金でまかなわれています。ゴミを減らすことで、私たちの税金の有効活用と地球温暖化防止につながります。

ゴミを減らしていくためには、私たちがもっとゴミのことを、真剣に考えて、行動し、一人ひとりの意識を高めていくことが重要です。

文：くらしのアドバイザー 杉元美知子さん (真幸地区)

ふるさと散歩

Furusato-sanpo

153

加久藤カルデラ



約15万年前、加久藤盆地は、雨水がたまり、湖でした

大昔、えびの市は火口湖であったことをご存知でしょうか。湖の水が引いて、現在は盆地になっています。

それでは、盆地はいつ頃、どのようにしてできたのでしょうか。

今から五十万年前以前、霧島火山の前身である加久藤火山が活動を始めました。加久藤火山は、約三千万年前、巨大な噴火を起こしました。その時噴出した火山灰は遠くは愛媛県や近畿・中部地方まで降りました。また、地下の大量のマグマ(岩石がどろどろに溶けたもの)が一度に地表に出てしまったために、マグマだまりが空洞になり、地面が大陥没しました。この大

きなくぼ地のことをカルデラと言います。その後、カルデラに雨水がたまり、加久藤湖となりました。

約十五万年前、加久藤カルデラ南部で再び火山活動が始まり、約七万年前から現在のような霧島火山群ができてきました。加久藤湖は、霧島火山や始良火山(桜島がある鹿児島湾奥部が約三万年前に大噴火)の火砕流や火山灰などが堆積して浅くなりました。

湖の排水口は、加久藤カルデラ西部の壁(湧水町方面)を浸食し、湖水が流れ出ました。こうして今日のような加久藤盆地(東西約十五キロメートル、南

北約五キロメートル)と川内川ができました。

現在、加久藤盆地の深さは、湖に接していた頃の高位段丘(美化センターのある台地・標高三百メートル)と川内川(標高二百二十メートル)の高低差で、約八十メートルです。

ちなみに、京町温泉のボーリングで地下八十メートルの地層から、木の葉が出たことがあるそうです。別のボーリング調査によれば、加久藤盆地の地下深い所に厚さ三百メートル以上の堆積物(岩や砂・泥)があり、数多くの植物化石が含まれているそうです。

(文)市歴史民俗資料館